

令和元年度 城西大学附属城西中学校

帰国生入学試験問題

国語

《注意》

- (1) 問題は 一 七 まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 「、」や「。」も一字とします。
- (4) 問題用紙、解答用紙とともに回収します。

一 次のそれぞれの文の（　）部にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。（同じ記号を一度選んではいけません。）

①夏の暑い日に（　）お茶を飲んで体温を下げる。

②先生にほめられたので（　）気持ちになつた。

③一人で行動することは決して（　）ことではない。

④彼は目が（　）ので遠くのものもはつきりと見える。

【選択肢】

ア 良い イ 悪い ウ うれしい エ 赤い オ 寒い カ 冷たい キ さみしい

二 次のそれぞれの文の傍線部の主語を答えなさい。

①机の上にはペンが並べて置いてある。

②僕はいつもの通り元気ですが、弟はかぜをひいています。

③明日は僕が待ちに待つ遠足だ。

④君は僕がさつき話したことを忘れてしまつたのか。

三 次のそれぞれの（　）部に生きものの名前を入れて、意味の通ることわざを完成させなさい。

①（　）に小判 ∵ いくら値打ちのあるものでも、価値のわからない者に与えるのはむだであること。

②（　）の一聲 ∵ 多くの人の議論や意見をおさえつける、有力者の一言。

③虎の威を借る（　） ∵ 他人の権威を利用していざること、また、その人。

四 次のそれぞれの文は、文法的に間違いがあります。正しい文に改めなさい。

①私の夢は、父の仕事を繼^{つづ}こうと思います。

②電車内での携帯電話を使うことは迷惑だ。

③彼は几帳面^{きちょうめん}なので、身の回りの物がよく整理している。

五 次のそれぞれの文の（ ）部の言葉を敬語表現に改めなさい。

①このお菓子はよく冷やして（食べてください）。

②先生はどうやって（来たのですか）。

③私もすぐに（行きます）。

六 次のそれぞれの文を意味の通る文章に並べかえ、その順を記号で答えなさい。

① ア これがあるのだからやめられないのだと思つた。

イ ふきとばされそうなほど風も強い。

ウ 外に出ることこえるような寒さである。

エ 初めはつらかったが、体が温まるにつれて苦しさは気持ち良さに変わつていった。

オしかし、それらをものともせずに私は走り出した。

②

ア もう一つは砂場でトンネルを作ることだ。

イ 太郎にはお気に入りの遊びが一つあつた。

ウ いずれにしても一人でやる遊びが好きだつた。

エ 一人で遊ぶよりみんなと遊ぶことの楽しさを知つたのだつた。

オ 一つはロボットのおもちゃを戦わせること。

力 だが、少しづつ友達と遊ぶことも楽しく感じるようになつてきた。

七 次の文章を読んで後の問い合わせに答えなさい。

「ぼく（【中略】より後では『准くん』）と「小野さん（【中略】より後では『わたし』）は共に作家「月森和」のファンである。「月森和」は別の名前でも本を書いていることを知った二人は、彼の作品に共通する登場人物名をヒントに推理し、「笛山有紀」という答えにたどり着く。本人に会つてみたいと思った二人は高速バスに乗り「笛山有紀」のサイン会に足を運ぶ。

「絵本を買ってってくれてありがとう。気に入つてもらえるといいんだけど。」

おつとりとした、穏やかな（ア）クチヨウだった。

「あ、あの……」

ぼくは勇気をふりしぼつて話しかけた。

「ぼ、ぼくたち、バスに乗つてきたんです。高速バスに乗つて、ずっと長いこと乗つて、ここまで来たんです……。」

「ありがとうございます。うれしいなあ。」

「あの……。あなたは本当は月森和ですよね。ミステリー作家の月森和ですよね。」

〔①え、どういうこと？月森和って、有名な作家さんよね。〕

首をかしげ、きょとんとした顔でぼくたちを見た。

「わたしは、そんなすごい作家さんとは違うわよ。ただの絵本作家なのよ。ようやく三冊目の本を出したばかりなの。そうねえ、まだかけだしの絵本作家かなあ。」

「で、でもぼくたち調べたんです。『海野シリーズ』とか『泣き虫探偵シリーズ』とか一生懸命に読み返して調べたんです。月森和は、別名義を使つてしまつたく違う本を書いていたんです。そして、その別名義が笛山有紀なんです。つまり、あなたなんです……。」

「まいっただわねえ。あなたたち誤解しているわよ。わたしは月森和じやないの。」

「じや、じやあ……。」

小野さんが声をふるわせながらいった。

「本当に違うんですか。本当に月森和じやないんですか？」

「ごめんなさいね。悪いけど。」

まさか、こんなことつて……。

〔②ぼくたちはことばをなくし、その場に立ちつくしていた。
机の向こうでは、笛山有紀さんが（イ）こまり切つた顔でぼくたちをじっと見ていた。〕

【中略】

「良かった……。ここにいたのね。」

背中のほうからいきなり声が聞こえた。

聞き（ウ）おぼえのある声にふりかえると、そこには筈山有紀さんが【★】をはずませて立っていた。
「あちこちさがしたのよ。」

「え？」

「とにかく、わたしについてくれない？ やつとサイン会も終わつたし、何かじちそうするから。」

そういうと筈山さんは、わたしと准くんの背中を押すようにして歩きだした。

さからうわけにもいかず、わたしたちはわけがわからないまま彼女についていった。
「このビルにはね、うちの旦那のお気に入りのお店があるの……。③美土里っていう店なんだけど、知らないかなあ？」
わたしたちが筈山さんに連れていかれたのは、地下一階にあるお店だった。

どことなく古びた店（エ）がまえで、『喫茶美土里』という小さな（オ）カンパンがかかるていた。
お店に入るとすぐだった。

奥の席に座つていた男の人が立ちあがり、筈山さんに向かつて手を振つた。
背が高くてやせていて、でもどこか飄々とした感じの人だつた。

〔④お待たせ。やつと見つけたのよ。〕

筈山さんはわたしたちの肩に手をかけ、男の人に向かつて嬉しそうにいつた。
そのとき、わたしはようやく思いだした。

美土里という店。それは『海野シリーズ』に出てくるあの喫茶店と同じ名前だつた。
これつてまさか……。

考えたことを口にする前に、筈山さんが男の人にさらに続けていつた。

「おどろいたわ。まさか、あなたの別名義をつきとめて本当に会いに来るファンがいるなんてね。しかも、小学生だなんて。男の人はおおげさに肩をくめている。⑤准くんがようやく気がついたのが、あわてて口をひらいた。

「あ、あの？ ジゃあ、まさか……。」

「さつきは本当のこといえなくてごめんなさいね。そうなの。彼が、月森和なの。」

わたしも准くんも、テーブルの前で思わず立ちどまっていた。

まさかそんな、この人が……。

「とにかく座りましょう。」

笹山さんに促されて、わたしたちはテーブルについた。^{うなが}

⑥頭の中はすっかり混乱していた。

「で、でも、笹山有紀というのは、月森和の別名義じやなかつたんじや……。」

准くんもわたしといつしょで、まだ考えの整理がつかないようだつた。

「うん。まあ、ちょっと複雑なんだけどね。」

男の人が、ぼさぼさ頭を手でかきながらいった。

「笹山有紀というのは、ぼくと彼女の共同のペンネームなんだ。だからつまり、月森和の別名義つてことにもなるんだよね。」

「じゃ、じゃあこの絵本つて……？」

わたしは手にしていた紙袋を指さした。中にはさつき本屋で買った絵本『猫の住む国』が入っていた。

問一 一一部（ア）～（オ）を漢字に直しなさい。

問二 一一① 「『え、どういうこと？月森和つて、有名な作家さんよね。』首をかしげ、きょとんとした顔でぼくたちを見た」とありますが、この時「笹山さん」は実はどのように感じていましたか。それが述べられている一文を本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問三 一一② 「ぼくたちはことばをなくし、その場に立ちつくしていた」とありますが、この時の「ぼくたち」の状態を表す表現としてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 堂に入る イ 身を粉にする ウ 路頭にまよう エ 途方に暮れる

問四 空欄部★にあてはまる言葉を、漢字一文字で答えなさい。

問五 一一③ 「美土里つていう店なんだけど、知らないかなあ？」とありますが、笹山さんが初対面の二人に対してこのようにたずねた理由を三十字程度で説明しなさい。

問六 一一④ 「お待たせ。やつと見つけたのよ」とありますが、何を見つけたのですか。次のア～エの中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「美土里」という名前の喫茶店 イ 月森和の正体 ウ 准くんと小野さん エ 高速バスの乗り場

問七 一一⑤ 「准くんがようやく気がついたのか、あわてて口をひらいた」とありますが、どのようなことに気がついたのですか。次のア～エの中からもつともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分たちのすいりが完全なまちがいではなかつたこと。

イ 世の中に「月森和」という同姓同名の人が二人いること。

ウ 笹森さんが「本当のこと」を言いたくない気持ちだったこと。

エ 笹山さんと月森和が「ぼくたち」に心を開きはじめたこと。

問八 一一⑥「頭の中はすっかり混乱していた」とあります。そのような状態になつた理由を次のようにまとめたとき、それぞれの空欄部に当てはまる名前の組み合わせとしてもつともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ・ぼくたちは（I）という人物を（II）という一人のミステリー作家の別名義だと信じ込んでいたが、目の前の（III）という女性から、同席している人を（IV）だと紹介されたため。

ア	I 月森和	II 笹山有紀	III 月森和	IV 笹山有紀
イ	I 笹山有紀	II 月森和	III 月森和	IV 笹山有紀
ウ	I 月森和	II 笹山有紀	III 月森和	IV 月森和
エ	I 笹山有紀	II 月森和	III 笹山有紀	IV 月森和
工	I 月森和	II 笹山有紀	III 月森和	IV 笹山有紀

問九 本文の内容に合うものを次のア～工の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼくたち」は月森和の正体を突き止めるために、入念な調査の上、近場の書店で行われたサイン会に向かつた。
イ 『海野シリーズ』や『泣き虫探偵シリーズ』は、笹山さんと「喫茶美土里」にいた男性との二人によって書かれたものである。
ウ 「男の人」はあまり話をしたくはないといった様子で、「ぼくたち」と笹山さんとの会話の中に混じっていた。
エ 本屋での説明のため、笹山さんから喫茶店に誘われて話を聞いた後も、「ぼく」はその内容をすぐには理解できなかつた。